

DX

製造分野における
DX推進

コース番号：129-030

2026年

開催日時：11月25日(水) 募集締切：11月11日(水)

9:30~16:30 (6時間)

開催場所：ポリテクセンター山梨（裏図参照）

定員：16名程度（先着順）

推奨者：中堅層～管理者層

受講料

3,300円（税込）

コースの狙い

生産現場で用いられる各種製造装置や製造工程の監視・制御にICTやIoTなどのデジタル化を組み込むことにより、製品やサービス、ビジネスモデルの改革（DX）を推進して、生産性向上、ビジネス競争力を獲得する方法を理解します。

主な訓練内容

◎製造業におけるDXの理解

(1) DXとは

- ・DXの定義やその捉え方について、身近な事例を通して、わかりやすく解説します。実際にDXを推進する企業が押さえておくべきポイントにフォーカスし、知っておくべき知識を整理します。

(2) 製造業におけるDX

- ・製造業において、DXが何を解決できるのかを解説し、自社の現状レベルを演習を通して理解します。

【演習】自社のデジタル化レベル診断

(3) DX推進に必要なデジタル技術

- ・製造業におけるDXを実現するために必要となる代表的なデジタル技術について概説します。

◎DX実現事例

(1) デジタルツールを活用した現場改善事例

- ・製造現場における、いろいろな課題解決について、デジタルツールを活用した各社の取り組み事例を紹介します。

(2) スマートファクトリー実現事例

- ・工場の様々なデータをデジタルデータとして収集・蓄積し、それを分析し、最適化を行っている各社の取り組み事例を紹介します。

【演習】事例から読み解く成功要件整理

(3) スマートプロダクト、スマートサービス事例

- ・デジタル技術を活用して、単に製品を供給・販売するだけでなく、新たなサービスや、製品自体に新しい価値を付加した事例を紹介します。

◎DX推進の目標設定と解決策

(1) DX推進企画

- ・現状と目指す目標を明確にすることで、自社で何を行うか、どのようなDX推進企画を描くかを学ぶ。自社においてデジタル化で何を解決するのかを演習を通して明確にし、DX推進につなげます。

【演習】自社の課題抽出と解決方向の検討

(2) 現場DX推進に役立つデジタルソリューション

- ・日進月歩で進化するデジタルソリューションから自社にフィットするものをどのように取捨選択するのか。現場DX推進に役立つデジタルツールを「IoT7つ」道具を通して紹介します。

【演習】IoT7つ道具活用チェックリストを使ったソリューション選定

◎DX推進の計画と実行

(1) DX推進ステップ

- ・DX戦略を立案する際に立ちちはだかる3つの壁と、DX実現のための6つのステップについて解説します。

(2) デジタル化が変える製造業、ものづくり現場DX推進のカギ

- ・デジタル化で製造現場はどう変わるのか、それを実現するためのポイントは何かを本日の講義のまとめとして解説します。

◎訓練内容のココがポイント！

- ・製造業に携わる方々が、DXやスマートファクトリーについてその考え方や事例を学びます。
- ・自社のデジタル化レベルの把握、DXで解決すべき課題の把握、DX課題の解決策検討等を演習を通して体感します。
- ・デジタルツール活用事例を実際に行ったビデオにより理解を深め、これらの知識の習得と演習により、自社におけるDXの推進に役立てます。
- ・本カリキュラムでは、IoT機器やPLCからのデータ取得とその活用についてのプログラム作成技術、AI活用のためのプロンプト作成技術といった専門技術に関する講義ではなく、製造現場におけるDXは何を行えばよいのか、それをどう進めていけばよいのかについて、より理解を深めるための講義を行います。

実施機関&講師

株式会社

日本能率協会コンサルティング

テクニカルアドバイザー

シニアコンサルタント

松本 賢治氏

講師Profile

生産・物流、サプライチェーンに関するコンサルティングを中心に40年以上にわたり多様な業種の200社以上のコンサルティングを行う。

製造業が抱える課題に対して、経営コンサルタントとして数多くの企業を指導、各社の課題解決に携わっている。



お申し込みは

※ 当HP内「令和8年度オープンコース第2弾受講者募集のご案内」の下部に、Excel形式で直接必要事項が入力できる「オープンコース受講申込書」があります。